

群 教 七	F08 - 01
	平28.261集
	生徒指導

お互いを認め合い、 自己存在感を高める指導の工夫

—算数科における、よさを見付けるための
振り返り活動の工夫を通して—

特別研修員 近藤 千香子

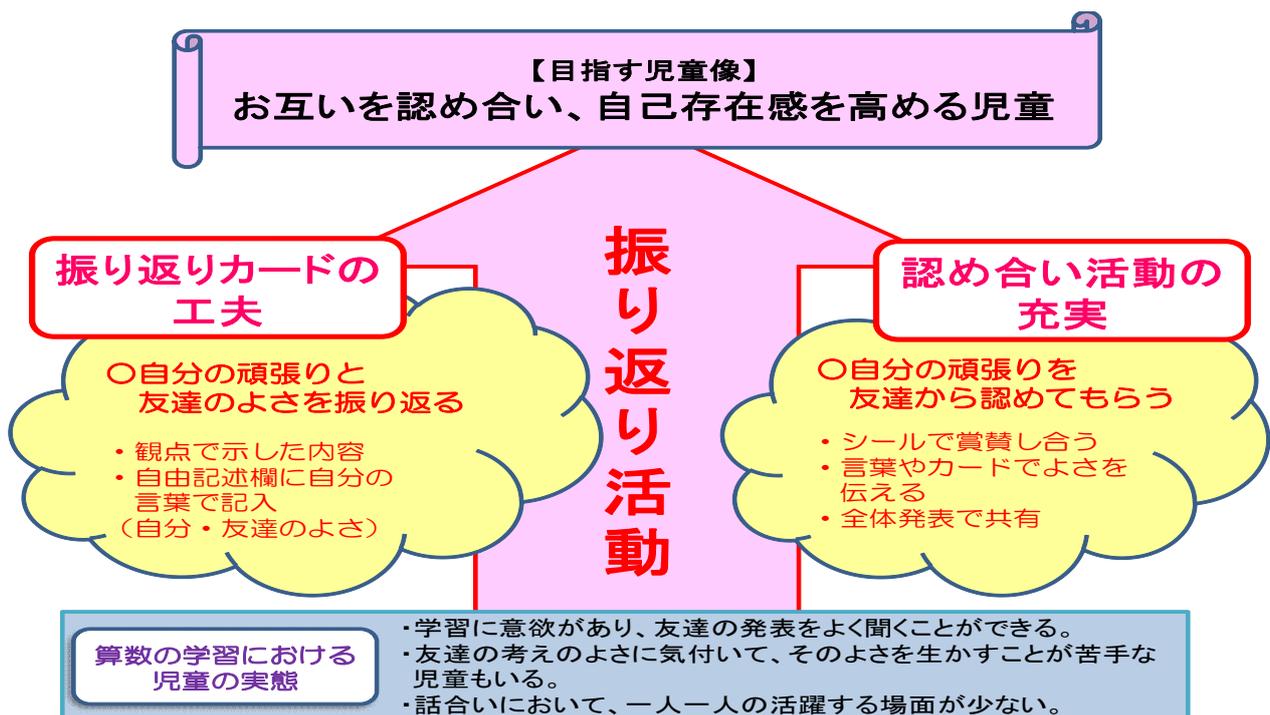
I 研究テーマ設定の理由

文部科学省の生徒指導提要では、学習指導における生徒指導として、「①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること」の三つの視点に留意することが求められている。また、生徒指導の推進の在り方として、分かる授業を行い、主体的な学習態度を養うことや共に学び合うことの意義と大切さを実感させることという観点も示されている。このことから、児童同士による学び合いを学習に生かせるような工夫を取り入れ、児童が自己存在感を感じられることが重要であると考えた。

担当学年の授業では、全体的に学習に対して意欲的で、友達の発表をよく聞くことができる。しかし、数名の児童の発表で学習が進む傾向があり、相手の考えや意見に対して、聞いてはいても反応が少ないという現状である。そこで、このような児童に対して、自分の考えに自信を持てるよう、友達の考えのよさを見付けて伝えられるような工夫を考えた。それは、自分の頑張りや友達のよさに気付けるような観点を示した振り返りカードや友達の良いところをカードで交換する交流活動の工夫である。このことで、自分の考えに自信を持てるようになったり、友達を認めることができるようになったりすると考える。さらに、振り返りカードを意図的に紹介したり掲示したりすることで、よりお互いを認め合えるようになり、そのことが自信につながり、自己存在感を高めることになると考え、上記のとおり、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

学習に対する意欲を生かしつつ、自分の考えに自信を持って学習に参加できるように、さらに友達のよい考えを自分の学習に生かせるようにするためには、個々の学習の充実を基盤に、友達との交流活動を工夫することが有効であると考えた。そこで、算数科の学習において、自分の考えを持ち、それを表現し、相手を意識して伝え合う活動を通して、自分や友達のよさを見付けて、お互いを認め合い、自己存在感を高められるような振り返り活動を工夫する。

手立て1 振り返りカードの工夫

- ・振り返りカードに、「分かりやすい説明とは」という項目を設け、発表の聞き取りのポイントとなるようにする。また、その項目と関連付けて振り返りの観点を設定することで、友達の発表について聞き取りやすくし、友達のよさに気づき、肯定的に評価できるようにする。
- ・提示した振り返りの観点について評価した上で、その観点を参考にして、自他の頑張りやよくできたことについて、自分の言葉で詳しく具体的に書けるように、自由記述欄を設ける。

手立て2 振り返りカードを使った認め合い活動の充実

- ・自分の頑張ったことやよくできたことについて発表し、友達から振り返りカードにシールを貼ってもらい、認めてもらうことで、発表してよかったと感じられるようにする。
- ・発表を聞いていた友達同士で、説明の仕方や内容についてよかったところをカードに書いて、互いに交換し合うことで、自分のよさに気づき、自分の考えや発表の仕方に自信を持てるようにする。
- ・自分の頑張りやよさ、友達が見付けてくれたよさを全体の場で発表する場を設定し、互いのよさに気付いたり、認め合えたりできるようにする。
- ・振り返りカードは教室に掲示し、誰もが自分や友達の頑張りやよさを目にすることができるようにし、自分を肯定的に捉えたり、友達同士で認め合えたりするきっかけになるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 観点や自由記述欄を設けた振り返りカードの工夫により、自分のよさにも友達のよさにも具体的に気付けるようになった。
- 振り返りカードを使って自分の頑張りや友達のよさを見付けて伝え合う活動をすることで、話し合い活動そのものが活性化した。生き生きと自分の考えを発表できる児童や、友達の考えを身を乗り出して聞き入り、反応する児童が増えた。
- 発表を聞いていた友達が、自分の頑張りやよさを認めてシールを貼ってくれたり、自分の発表の良いところを見付けてカードに書いてくれたりすることで、自分の考えや答えに自信を持ち、全体での発表に積極的に取り組めるようになった児童もいた。
- 自分の頑張りやよさを友達に発表し認め合う活動で、「すごいね」と友達を賞賛する児童や、認められたことを素直に喜んで「ありがとう」とコメントを返す児童もいた。
- 自分の頑張りやよさを自分で再確認したり、友達から認めてもらえたりすることで、発表してよかった、頑張ったよかったと自分について肯定的に捉えることができ、自己存在感を高めることにつながった。事後の学習においても、自分の考えに自信を持って学習に取り組む児童が増えた。

2 課題

- 友達のよさを記入したカードを渡し合う活動では、カードをもらえない児童が出てしまったので、カードを記入する相手を決めたり、複数の相手にカードを書いたりするという配慮が必要であった。
- 振り返り活動時のカード交換では、言葉を介した交流があまり見られなかった。認め合いということであれば、カード交換だけでなく、コミュニケーションが構築されるように、継続した取組や他教科での実施を工夫していく必要がある。

実践例

1 単元名 「面積のはかり方と表し方」(第4学年・2学期)

2 本単元について

本単元では、面積についての量感を豊かにするために、面積の単位や測定の意味を理解し、面積を計算によって求められることを学ぶ内容となっている。構成は三段階となっている。第一段階では、日常生活の中で広さを比べる場面を取り上げ、面積についての興味・関心を高めながら、広さを数値化することのよさ、普遍単位の必要性、有用性に気付かせる。第二段階では、長方形と正方形の公式を導くことを主なねらいとした活動を行う。その中で、前時までの学習を基本にして、複合図形のア積の求め方について様々な方法で考え、自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えを読み取ったりする活動を通して、思考力や表現力を育てていく。第三段階では、面積を表す対象によって適切な単位があることを理解し、大きな面積の単位の相互関係について考える。これらの段階を追って学習を進めることで、面積についての量感がさらに豊かになることをねらいとしている。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにするとともに、面積について理解する。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	面積は、縦横の辺の長さから計算で求められることの便利さに気付き、面積の求め方を考えようとしている。
	数学的な考え方	いろいろな形の面積を分割するなどして考え、図や式などを用いて説明することができる。 正方形の1辺の長さと面積の関係を見出し、説明することができる。
	数量や図形に関する技能	面積の公式や任意単位を用いて、面積を求めることができる。
	数量や図形に関する知識	面積の意味や面積の単位とその相互関係を理解している。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1～2時	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな方法で面積の比べ方を考える。 ・面積の表し方を考える。
課題 追 究	第3～4時	<ul style="list-style-type: none"> ・長方形、正方形の面積を計算で求める方法を考える。
	第5～9時	<ul style="list-style-type: none"> ・長方形を組み合わせた図形のア積を、補助線や数値などを書いて、分割したり補ったりするなどのいろいろな考え方で求める。 ・面積の求め方を友達同士で説明し合い、いろいろな求め方を知る。 ・広い大きさのア積の表し方を考える。 ・広い面積をcm、mで求め、それぞれの単位の関係について考える。 ・広い大きさのア積の新しい表し方を知る。 ・単位とする正方形の1辺の長さと面積の単位の相互関係を調べてまとめる。
まとめ	第10～11時	<ul style="list-style-type: none"> ・算数的活動を通して、学習内容の理解を深め、面積についての興味を広げる。 ・学習内容の定着を確認するために、問題に取り組む。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全11時間計画の第5時に当たる。前時までの4時間で、面積の単位や測定の意味を理解し、基本的な図形である長方形と正方形のア積を計算によって求めることができるようになっている。本時では、複合図形のア積の求め方について、長方形や正方形に分割することによって、既習のア積の公式が使えるという見通しを持ち、自分なりに考えた解き方を、友達に伝え合う活動を行う。自分の考えを図や式を使って自分なりの工夫をして表現し、それを相手を意識して分かりやすく伝え合い、お互いの考えのよさに気付いたり、認め合ったりすることができるようにすることが重要となる。そこで、振り返り活動の充実のための手立てを工夫した。

手立て1

自分の頑張りに気付いたり、友達のよさを見付けられたりするよう、考え方や説明の仕方のよさを観点で示した振り返りカードを使用する。

- ・「話し方のスキル」「説明時の工夫」「内容・解答の工夫」の3つの具体的な観点に絞って提示し、該当する場合は○を付けるという形にすることで、短時間でスムーズに頑張りやよさを見付けられるようにする。さらに、自分や友達の頑張りやよさについて気付いたことを、3つの観点を参考にして、より詳しく自分の言葉で記入できるよう、自由記述欄を設けた。
- ・自分の頑張りやよさを見付け、友達のよさも同じ観点で見取ることで、自分で自分を認めたり、互いのよさに気付いたりすることができるようにする。

手立て2

振り返りカードを使った認め合い活動の充実を図る。

- ・自分が頑張ったことを振り返りカードに記入して発表し、友達からシールをもらったり賞賛の言葉をかけてもらったりして、友達から認めてもらうことができるようにする。
- ・友達の発表について、考え方や説明の仕方等のよさを見付けてカードに記入し、カード交換をすることで、お互いのよさを認め合うことができるようにする。
- ・自分の頑張りや友達のよさを全体の場で発表することで、お互いのよさを共有して認め合いがより深まるようにする。
- ・振り返りカードは、教室掲示して、学習への意欲付けや認め合いにつながるようにする。

4 授業の実際

(1) 振り返りカード(図1)の工夫

話し方や説明の内容、自分なりの工夫という3つの観点に絞って提示し、該当すれば○をつける。この3観点と分かりやすい説明を参考に、自由記述欄に詳しく記入できるようにした。①で自分の頑張りを振り返り、②で友達のよさを記入して、切り取って友達に渡せるようにした。

(2) 振り返りカードを使った認め合い活動の充実

小グループでの話し合いの後に、振り返りカードを使って取組について振り返ることを伝えたことで、グループでの話し合い活動が活性化し、相手に分かりやすいように工夫をして、自分の考えを説明していた。聞き役の子も、友達の考えをしっかりと聞いて、よさを見付けようと真剣に取り組んでいる様子が見られた(図2)。



図2 指を指して説明する児童に、身を乗り出して聞き入る児童

算数振り返りカード
～よいところをたくさん見つけよう～

「面積のはかり方と表し方」10/21(金)
4年 組 番 名前()

《今日のめあて》
くふうして面積を求め、
分かりやすく友達に説明しよう。

(分かりやすい説明とは)
○したことが分かる。
○式や図がある、一冊を使っている。
○順序が分かる。

★友だちとの話し合いについて、ふり返って書きましょう。
あてはまることの()に○をつけましょう。(何個ついてもよいです。)

①自分のがんばったこと・よくできたこと
 聞きやすい声・速さで話せた。
 説明の内容・言葉をくふうした。
 自分なりのくふうした考え方を話せた。

★自分の言葉でくわしく書いてみましょう。(～ のことをくわしく)
 図を見せて、指をさして説明できた。

友だちから

----- 切り取り線 -----

②友だちのがんばったこと・よくできたこと
 聞きやすい声・速さで話してくれた。
 説明の仕方が、分かりやすかった。(どんなところが)
 くふうして考え方を話してくれた。

..... さんの よかったところ

★友だちの説明のどんなところがよかったかを言葉で書いてみましょう。
(特に、 ～ のことをくわしく)

2つあわせてたりして、すくエ夫していいと思いま
した。かんたんに計算できるようにしていました。

..... より

図1 児童が記入した振り返りカード

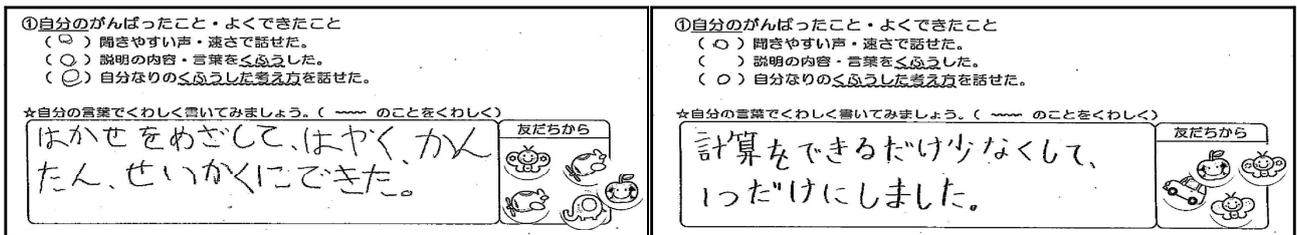


図3 観点に即して、算数的ねらいを踏まえて記入した振り返りカード

振り返りカードに記入した自分の頑張り（図3）を発表し、友達からシールを貼ってもらうことで認めてもらう（図4）。「すごいね」や「頑張っていたね」と声を掛けながら、シールを貼っている児童もいた。また、とても良かったからとシールを2枚貼ってあげていた児童もいた。シールをもらった児童も、笑顔で喜んでいる様子が見られた。「ありがとう」と返事をしている児童もいた。発表を聞いた友達の説明について、見付けた頑張ったことやよくできたことを、振り返りカード（図5）に記入して、切り取って渡した。



図4 友達からシールを貼ってもらう児童

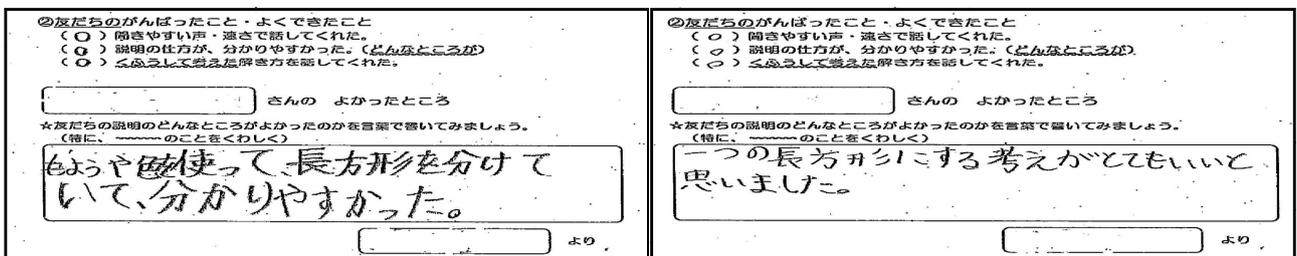


図5 友達のよくできていたところを記入した振り返りカード

学習後、振り返りカードはコピーして教室に掲示した（図6）。自分の頑張ったことや友達から見付けてもらったよさをみんなで見ることができ、自己存在感を感じる事ができた。また、いつでも誰でも、自分や友達を認め合えるきっかけ作りとなった。

振り返りカードを使った振り返り活動について、児童から「友達がなるほど、と言いながら聞いてくれてうれしかった」「みんなからよかったよ、と言ってもらえた」「友達にいいところを気付いてもらえてうれしい」という感想があった。



図6 教室掲示された振り返りカードを見る児童

5 考察

振り返りカードを使って振り返り活動をする事は、自分の考えを自分の言葉で説明することにも、相手に分かりやすく説明することにも意識を向けることになった。相手を意識したことで、自分の考えを図や式を使って分かりやすく工夫して表現することになり、数学的な思考力・判断力・表現力の育成にもつながったと考える。

振り返りカードの自由記述欄の内容が、振り返り活動をしていく中で、「一つの式にして、計算を少なくした」「色を使って図形を分けていて、分かりやすかった」等、よさの記入がより詳しく具体的になった。3つの具体的な観点と教室掲示された友達の振り返りカードを見ることが参考になり、有効な手立てであったと考えられる。自分の発表に対して、友達からすぐに反応が返してもらえ、シールやカード交換で肯定的に評価されることは、自己存在感を感じるきっかけにもなっていた。アンケート結果についても、振り返り活動をすることが楽しいと解答した児童が92%、算数の学習が好きになった児童が72%と学習前に比べて上昇した。振り返り活動という友達との交流の中で、他者とのより良いコミュニケーションを構築できるようになり、自分の存在の価値について気付き、自己存在感を高められたと考えられる。